

栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成23年2月28日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2011
2月
やま
かい
どう



CONTENTS

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
 - ・吾妻古墳(壬生町・栃木市) ・北ノ内遺跡(市貝町)
 - ・寺之後遺跡(佐野市)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から
 - ・片田富士山遺跡(大田原市) ・刈沼向原遺跡(宇都宮市)
 - ・上神主・茂原官衙遺跡(宇都宮市・上三川町)
- ・唐沢山城跡(佐野市)
- おおむかし、わんぱく体験2010
- 特集 勾玉ってなあに?
- つながる北関発掘展
- ロビー展示から

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

1. 吾妻古墳(壬生町・栃木市) -切り組み加工の石室入口石材を確認-

平成22年度の調査では、前方部の横穴式石室の入口を確認し、全長8.4mであることが分かりました。前年度の調査で、奥室の閃緑岩の巨石の前に、川原石を積んだ壁があることが分かっていたのですが、その先端に凝灰岩を加工した門のような入口が発見されました。この石材にはブロックのように精巧な加工が施され、下端には切り組みと呼ばれる逆Lの字形に作られていることを確認しました。このような高度な石材加工は7世紀にならないとみられない技術と考えられてきましたが、6世紀後半の吾妻古墳に使われていたことは驚きです。

石室の中や前面から、金や銀で飾った大刀や刀子(小刀の一種)、馬具の部品が出土しました。大刀の部品は鞆やにぎりの部分を固定するためのもので、銀でできています。刀子はにぎりの部分に銀の板が巻かれています。馬具は革帯の交差する部分を固定するためのもので、鋳が一つだけ残っています。金銅と呼ばれる銅に金メッキしたものを使用しています。前年度に出土した挂甲(よろいの一種)とともに当時の栃木の王の強大な権力を表すものと言えます。



吾妻古墳出土遺物 上：銀装刀子、下左：馬具の金銅製帯金具、
下右：装飾付大刀の銀製貫金具



石室入口部分を南から見る 手前の二つの石が入口



東側の加工石材を西から見る

2. 北ノ内遺跡（市貝町）^{きたのうち} –四面廂^{しめんびさし}の大型掘立柱建物跡–

北ノ内遺跡（2次調査）の発掘調査は、圃場整備事業に伴う記録保存を目的に、平成22年5月から10月までの6ヶ月間行いました。遺跡は、市貝町役場の北方約1.5kmの文谷地内にあり、南に流れる小貝川左岸の南那須丘陵の裾にあって、陽当たりの良い西向きの緩やかな斜面上にあります。

調査の結果、奈良時代から平安時代（約1,300～1,200年前）の竪穴建物跡33軒、大型掘立柱建物跡18棟、大小様々な形の土坑15基と、土器（土師器^{はじきつき}坏・甕^{かめ}、須恵器^{すえき}坏・蓋^{ふた}・甕^{えんめんげん}・円面硯）や鉄製品（鎌^{かま}・小刀^{やりがんな}・槍鉾^{ぼうすいしゃ}）、石製品（紡錘車^{とひ}・砥石）などが発見されました。

特筆すべきは、大型掘立柱建物跡と円面硯（墨を水ですりおろすために使う円い硯^{すずり}）や墨で「目」と書かれた土器が発見されたことです。

掘立柱建物跡は、いずれも古代の寺院や官衙（役所）などで見られるような大型の建物で、このうちの1棟は、四方に廂を取り付けた四面廂建物跡です。四面廂建物跡は、平城宮跡や地方官衙遺跡でも限られた存在であり、格式の高い中心となる重要な建物に用いられた構造です。また、硯と墨と文字は一体のようですが、硯が一般的な集落遺跡から出土することは稀なことですし、土器に書かれた文字は達筆^{たっぴつ}ですから、きちんと読み書きのできる人物の存在が推測されます。

これらのことから、北ノ内遺跡は、政治的経済的な有力者の居宅であったのではないかと考えられますが、今後は、四面廂建物跡・円面硯・「目」と書かれた文字の解釈を含め、遺跡の全容を解明していきたいと思えます。



四面廂の大型掘立柱建物跡（北から）



底部に「目」と書かれた墨書土器



小
貝
川

上空から見た掘立柱建物跡の配置（上が北）

3. 寺之後遺跡（佐野市）^{てらのうしろ} -奈良・平安時代の集落跡を確認-

寺之後遺跡は、道の駅「どまんなかたぬま」の北側に位置します。県道拡幅工事に伴い発掘調査が行われ、古代から中世の遺構・遺物が見つかりました。中心になるのは、奈良時代及び平安時代の集落跡で、今回の調査では13棟の竪穴住居跡が確認されました。調査区の制限から全体を調査できたものではありませんが、方形を基調とした一辺4m前後の住居跡が中心です。住居跡同士に重複は見られず、一定の距離をおいて点在しています。

カマドは住居跡の北壁あるいは東壁に付設されており、いずれも各辺の中央からどちらかに寄っています。地山を掘り残す、あるいは地山土を主体としてカマドを築いています。特に残りが良かった住居跡では、カマド内側が熱を受けて赤く変色しており、その部分はカマドの燃焼部底面から50cmの高さまで認められるものもありました。通常のカマドの形状とは異なり、特異なものです。また、他の住居跡では、川原石を支脚として用いたものも見つかっています。同住居跡では煙道部分も明確に確認することができました。

出土遺物は、土師器の坏、甕、須恵器の坏のほか、平安時代の住居跡からは、瓦が出土しています。



熱を受けて内側が赤化したカマド



平安時代の住居跡から出土した瓦

市町教育委員会が実施した発掘調査から

4. 片府田富士山遺跡（大田原市）^{かたふだふじやま} -丘陵上の縄文中期の大規模集落跡-

片府田富士山遺跡は、大田原市片府田^{さびがわ}にあり、蛇尾川と^{ほうきがわ}箒川の合流点から約2km上流の丘陵頂上部分にあります。今回の調査は、市道の拡幅事業に伴う発掘調査です。平成22年3月に確認調査を行い、縄文時代の住居跡や貯蔵穴跡を確認したため、同年6月から本調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代中期後半を中心とした竪穴住居跡20軒、袋状土坑約146基、ピット約500基などの遺構が発見されました。特に、住居に付設される炉は、石組炉の前面に掘り込みをもつ石組複式炉が多く発見されており、注目されます。また、遺物としては、縄文時代草創期の石器、早期の土器、前期の土器・瑛状耳飾り、中期の一括で投棄された大量の土器・^{うめがめ}埋甕、後期の土器などコンテナ130箱^{おびた}という夥しい量の遺物が出土しており、長期にわたってこの地が縄文人に利用されていたことがわかりました。

これらの資料は、ただいま水洗・接合・分類等の作業を行っており、平成23年度末までに資料整理の結果を報告できるよう作業を進めています。

大田原市教育委員会（0287-98-7115）



縄文時代中期の竪穴住居跡



縄文時代の石器・石製品

5. 刈沼向原遺跡（宇都宮市）-古墳時代初頭の北陸系土器が出土-

刈沼向原遺跡は、鬼怒川東部のテクノポリスセンター地区内にあたり、刈沼川に面する芳賀台地西端の緩斜面上に立地します。

今回の調査は、遺跡の第Ⅲ次調査で、古墳時代前期の竪穴住居跡が1軒確認されました。住居跡は一辺5mの隅丸方形の平面プランで、4本の柱穴と、南東隅に貯蔵穴があります。

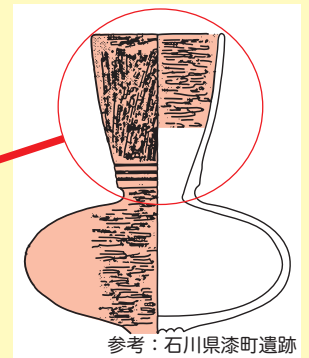
住居跡内からは、壺・甕・器台・小型高坏・高坏、紡錘車等の遺物が出土しました。特に注目されるのは右下写真の細頸壺の口縁部片です。口縁部が長く、その下端には5本の沈線とヘラ状の工具による刻みが施されています。この特徴から北陸系の土器であることがわかります。このほかに東海系のS字状口縁甕、茨城県に分布の中心がある十王台式土器の破片が出土しています。

このことから、古墳時代初頭における他地域との活発な交流の様子を窺い知ることができます。

(宇都宮市教育委員会 028-632-2764)



竪穴住居跡遺物出土状況



参考：石川県漆町遺跡

北陸系細頸壺（口頸部のみ）

6. 上神主・茂原官衙遺跡（宇都宮市・上三川町）-東山道からの入口施設を確認-

上神主・茂原官衙遺跡は、宇都宮市と上三川町にまたがる、田川西側の台地上に位置します。人名文字瓦が出土することで以前から知られ、寺院跡と考えられていましたが、平成8年度から実施した発掘調査で、奈良時代を中心とした河内郡の役所である可能性が高まり、平成15年8月に国史跡に指定されました。

平成18年度より両市町では、今後の整備事業に向けて、発掘調査を実施しており、今年度は遺跡に近接する東山道からの入口施設を確認するための発掘調査を実施しました。

調査の結果、東山道と最も接近する箇所では区画溝が途切れ、土橋状になっている箇所が確認されました。ここから5m北側には、土橋と同じ幅で、東側に東西2.1m×南北1.4mの非常に大きな壺掘りの柱穴が1基確認され、西側においては東西13.4m×南北1.3mの長大な布掘りの柱穴が確認されました。この2基の柱穴は、位置関係から入口に係る建物跡と考えられます。残念ながら、残りの柱穴があると考えられる場所が、今年度の調査対象区域外にあったことから、今後の調査において、全容解明を行います。

宇都宮市教育委員会 (028-632-2764)

上三川町教育委員会 (0285-56-9159)



入口部分建物跡確認状況（南西から）



入口部分全景（南から）

7. 唐沢山城跡（佐野市）-城主の下屋敷の建物関連石列か？-

唐沢山城跡は戦国時代から近世初頭にかけての佐野氏の居城です。関東七名城の一つに数えられています。山頂部では標高 242 mの本丸を中心として同心円状に曲輪くるわが配置されます。特に本丸周辺には関東で珍しい堅牢な高石垣が残ります。また、山麓には家臣団の居住地であった根小屋が広く残り、現在でも一定の区画が認められます。このため、山頂と山麓の遺構が組み合わさった貴重な城跡であると評価を得ています。

平成 22 年度の遺構確認調査では西麓の根小屋地区のうち、御台所おだいどころ周辺の調査を実施しました。調査では新たに長さ約 6 mの石列等を検出しています。石列は場所により 3 段の石積みが確認されています。調査範囲が限られているため断定できませんが、石列は建物施設に関連した遺構である可能性が考えられます。なお、この御台所は記録史料に「下御屋敷」の記載がある場所です。また、周囲には大規模な堀が巡る等、城主の下屋敷であった可能性があります。御台所の空間的性格の把握は根小屋地区や唐沢山城跡を理解する上で重要になります。このため、来年度も付近の調査を継続する計画です。

佐野市教育委員会 (0283-86-3495)



御台所周辺の調査状況



御台所で検出された石列

おおむかし、わんぱく体験 2010

10月16・17日の両日、昨年度に続き「とちぎグリーンフェスタ 2010」の協賛事業として、「おおむかし、わんぱく体験」を実施し、2,135名の参加者で賑わいました。

昨年好評だった弓矢の試射・土器の展示・土器パズル・縄文施文コーナーに加え、幼児から小学校低学年が多いことから、今年度は掘り出した土器片がどの種類の土器か当てる簡易な発掘体験コーナーを新設しました。また、スタンプラリーで、全コーナーを回った来場者には記念品を贈呈しました。



土器立体パズル



土器写真パズル



縄文施文コーナー



発掘体験



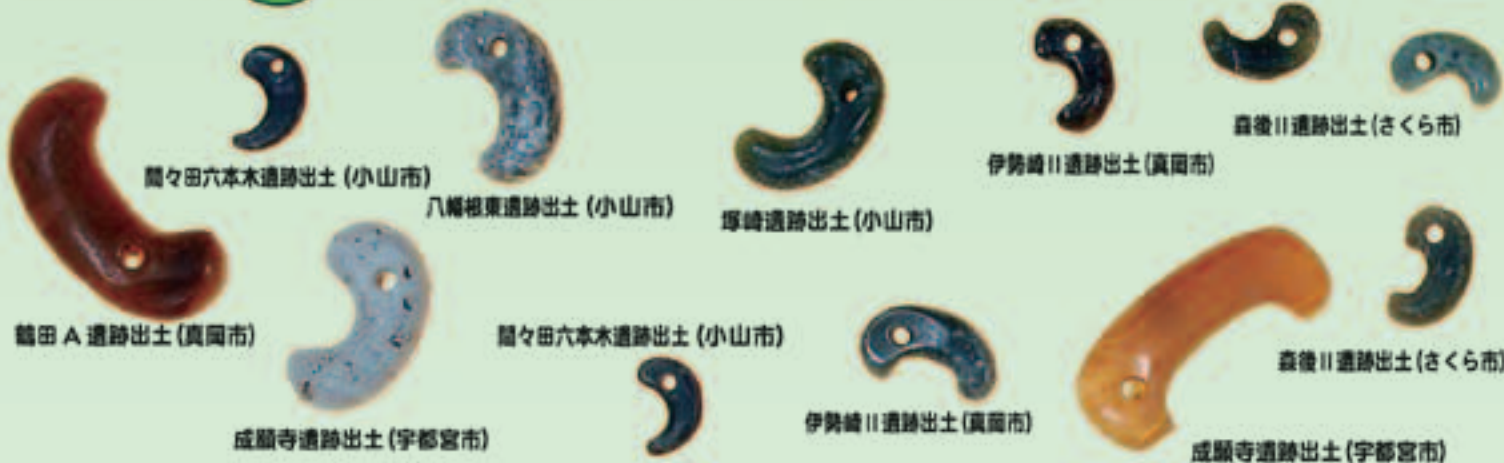
弓矢の試射



土器当てコーナー

特集 勾玉ってなあに？

市ノ塚遺跡出土(真岡市)



関ヶ原六本木遺跡出土(小山市)

八幡祖東遺跡出土(小山市)

塚崎遺跡出土(小山市)

伊勢崎II遺跡出土(真岡市)

森後II遺跡出土(さくら市)

鶴田A遺跡出土(真岡市)

関ヶ原六本木遺跡出土(小山市)

伊勢崎II遺跡出土(真岡市)

森後II遺跡出土(さくら市)

成願寺遺跡出土(宇都宮市)

成願寺遺跡出土(宇都宮市)

5世紀は、だいたい市長さんクラスまで。

20

次に5世紀

青メノウ(碧玉)製が多い

逆Cの字に似ています。

「逆C」の字に似ています。

「逆C」の字に似ています。

16

王から勲章のよつこにもちこんで持っている人が少ない。

12

6・7世紀は、村長さんクラスまで。

21

そして6・7世紀

この形の勾玉は、いっばい出ているよ。

赤・黄・白色が多く、緑色は少ないよ。

「この字に似ています。」

17

勾玉ひとつが一人分の魂と考えられていたかも...

13

おとっさん

おかげ！

かたみじやあー

おかげ！

そして、親から子へ、伝えられたことも、あったよつです。

22

だから、

パワーストーンのような形はないのです。

マラカイトやラズライトもありません。

18

話は変わりますが、

勾玉の形と石で、

いつ作られたのかが、

だいたいわかります。

14

このように、勾玉は、今のお守りと勲章と玉石をひとつにした

エライ人たちのシンボルだったのです。

23

3・4世紀は、大臣や県知事クラス

時期によって勾玉を持つる人の身分が違いました。

19

これが3〜4世紀

髷がついてる

特別に

「丁字頭勾玉」といいます。

15



寺野東遺跡出土(小山市)



寺野東遺跡出土(小山市)



寺野東遺跡出土(小山市)



成願寺遺跡出土(宇都宮市)



市ノ塚遺跡出土(真岡市)



五科遺跡出土(小山市)



寺野東遺跡出土(小山市)

間々田六本木遺跡出土(小山市)



成願寺遺跡出土(宇都宮市)



野木川遺跡出土(野木町)



成願寺遺跡出土(宇都宮市)

八幡根東遺跡出土(小山市)

まがたま物語



全一回

勾玉は玉の魂で生命と考えられていました。

身体離脱すな！

おなじみの勾玉は弥生時代になってから中国へのおみやげに持ってお行き！

勾玉は、文字どおり、曲がった玉のことです。

真珠は「珠」書きました。

だから特別な石のヒスイ・メノウ・水晶などで作られていました。

石を魂のはたいへんなのヨ

そして勾玉が大流行する古墳時代がやってくる

勾玉だあいすきー

縄文時代にも勾玉はありました。

北島 竜画

宝石と同じかたい石で作るので、少ししかできません。

うんしょ

勾玉がどうして生まれたかは、わかっていません。

だから、ただの首飾りではないゾよ

オオキニ

これまでの主な説は、胎児説、目説、キバの首飾り説、耳飾り説、韓国の勾玉説、など。

でも形はいろいろ

北関東自動車道全線開通記念
栃木・茨城・群馬三県合同 栃木県立博物館 特別企画

きた かん
つながる 北関

発掘展

北関東発掘17年間の成果を
三県まとめて一挙に公開!

群馬～栃木～茨城の3県を結ぶ北関東自動車道が3月19日全線開通を迎えます。これを記念し、発掘調査が実施された路線内の150遺跡の中から、地域を理解するうえで重要な遺物を展示し、それらを出土した遺跡について分かりやすく解説します。

栃木県立博物館
平成23年
4/16[土] ▶ 5/15[日]

〒320-0865 栃木県宇都宮市睦町2-2 TEL.028-634-1311
休 館 日：期間中の月曜日と5月6日(金)
開館時間：9時30分から17時00分まで(入館は30分前まで)
入 館 料：一般250円(200円)、高校・大学生120円(100円)
中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

遺跡調査会
日時：5月7日(土)10時～15時
会 場：栃木県立博物館 講堂
事前申し込み制(定員200名、参加費無料)
お申し込みは、博物館 普及資料課へ(TEL.028-634-1312)

バスで
・宇都宮駅又は東北宇都宮駅から
・「稲葉」駅(徒歩約10分)より「西国分町」バス停まで乗車
・「西国分町」バス停より徒歩約10分
・「西国分町」バス停より徒歩約10分

クルマで
・栃木方面からは、北関東自動車道(宇都宮IC)より約20分
・茨城方面からは、北関東自動車道(宇都宮IC)より約20分
・群馬方面からは、北関東自動車道(宇都宮IC)より約20分

ロビー展示から

当センターが保管する遺物について、栃木県総合文化センターと埋蔵文化財センターのロビーで展示を行っています。近くにおいでの際はお立ち寄り下さい。

大地に残された縄文時代の食糧貯蔵庫群

那須烏山市小鍋前遺跡おなべまえでは、縄文時代中期から後期前半(今からおよそ4,500～3,800年前)の木の実などの食糧を貯蔵していた袋状土坑と呼ばれるたくさんの穴や、竪穴住居跡などが発見され、縄文時代の大きな集落跡があったことが明らかになりました。

縄文人はシカやイノシシなどの動物よりも、木の実や山菜などの植物性食物が主食であったと考えられ、食糧が少なくなる冬から早春に備えて、秋に収穫した木の実などを地面に穴(土坑)を掘って貯えていました。

この穴は、上面が耕作により削平されてしまいましたが、入り口が狭く底が広い巾着袋に形が似ていることから、袋状土坑と呼ばれています。この形状に掘るのは大変ですが、温度や湿度が一定に保つことができ、短期間の食糧保存には最適であり、縄文人の知恵をうかがうことができます。しかし、発掘調査で発見されるものは、貯蔵の役目が終わったものがほとんどで、壊れた土器を捨てるゴミ穴に転用されたものが多いようです。



袋状土坑調査風景



埋蔵文化財センターロビー展示

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及事業担当まで TEL 0285-44-8441

